

伊達忠宗記録引證記

六

内閣文庫			
三 五 函	一 四 架	三 一 〇 五 三 號	和 書 類

内閣文庫			
一 五 函	一 七 架	三 一 〇 五 三 號	和 書 類

七  
〇  
〇  
〇

史  
一  
〇  
五

内閣文庫	
番號	和 31053
冊數	8 ( 5 )
函號	158 339





寒泉齋記續引流記 六

二月四日 庚申年

一 寒泉齋在伊予中津 萬山三三園記二卷園望

一 二月四日 庚申年

伊予中津 萬山三三園記二卷園望

一 三月 伊予中津 萬山三三園記二卷園望

一 三月 伊予中津 萬山三三園記二卷園望

一 三月 伊予中津 萬山三三園記二卷園望

一 三月 伊予中津 萬山三三園記二卷園望

一 三月 伊予中津 萬山三三園記二卷園望

一 三月 伊予中津 萬山三三園記二卷園望

一 三月 伊予中津 萬山三三園記二卷園望

一 三月 伊予中津 萬山三三園記二卷園望

一 三月 伊予中津 萬山三三園記二卷園望

一 三月 伊予中津 萬山三三園記二卷園望



憲宗君託録引證記 六

一 保四丁亥年中

一 義山様行事 其山正書記二卷目録

一 保四丁亥四十九年時

一 見日 中曹目様 中出少禮論 西書出

一 三白 中野初 吉書場様之助様中名氏出八幡山

一 五白 中野 正之助様中登 城守太刀目録を以て

一 上様 中野様中合路五十来

一 十白 中一門中 中野 大御之様之小例并京

一 九白 中野 大御様中其世所出

一 十九白 中野 大御様中其世所出

一 後七白 中野 大御様中其世所出

一 二月 中野 大御様中其世所出

一 口 中野 大御様中其世所出

一 口 中野 大御様中其世所出













小十市一人、上様中、年色以初、と申、観公多光之  
云、庚申、廿日、下向、小十市、九月、三日、

一、六日、深田、松平、大和、松平、延、卯、辰、の、祝、云、大和、松平、の、辰、辰、と、  
興、文、在、松平、の、岩、山、の、之、黒、河、内、大、童、の、休、登、岩、  
山、の、松、中、の、志、と、は、但、四、日、の、辰、

一、八日、武山、松平、の、辰、辰、の、祝、云、余、の、上、四、日、者、又、子、の、市、  
之、街、の、之、り、の、松、平、の、辰、辰、の、辰、辰、の、辰、辰、の、辰、辰、の、辰、辰、  
公、の、祝、氏、の、之、り、の、辰、辰、の、辰、辰、の、辰、辰、の、辰、辰、の、辰、辰、  
の、辰、辰、の、辰、辰、

一、一日、堀、伊、松、氏、七、日、辰、辰、の、辰、辰、の、辰、辰、の、辰、辰、の、辰、辰、  
の、辰、辰、の、辰、辰、の、辰、辰、の、辰、辰、の、辰、辰、の、辰、辰、  
一、十一日、七、日、辰、辰、の、辰、辰、の、辰、辰、の、辰、辰、の、辰、辰、  
十一、日、辰、辰、の、辰、辰、の、辰、辰、の、辰、辰、の、辰、辰、の、辰、辰、  
人、の、辰、辰、の、辰、辰、の、辰、辰、の、辰、辰、の、辰、辰、の、辰、辰、

一、一日、廿、日、辰、辰、の、辰、辰、の、辰、辰、の、辰、辰、の、辰、辰、  
之、辰、辰、の、辰、辰、

一、廿四日、内、辰、辰、の、辰、辰、の、辰、辰、の、辰、辰、の、辰、辰、  
文、の、辰、辰、の、辰、辰、の、辰、辰、の、辰、辰、の、辰、辰、  
の、辰、辰、の、辰、辰、の、辰、辰、の、辰、辰、の、辰、辰、  
の、辰、辰、の、辰、辰、の、辰、辰、の、辰、辰、の、辰、辰、  
の、辰、辰、の、辰、辰、の、辰、辰、の、辰、辰、の、辰、辰、

一、八日、安山、松平、の、辰、辰、の、辰、辰、の、辰、辰、の、辰、辰、  
之、辰、辰、の、辰、辰、の、辰、辰、の、辰、辰、の、辰、辰、  
一、廿二日、辰、辰、の、辰、辰、の、辰、辰、の、辰、辰、の、辰、辰、  
百、下、申、出、の、辰、辰、

一、十七日、辰、辰、の、辰、辰、の、辰、辰、の、辰、辰、  
一、十八日、辰、辰、の、辰、辰、の、辰、辰、の、辰、辰、  
月、十八日、辰、辰、











- 一 海日彦文作十年亦大威佐殿其甚多氏下加得四  
 女又とと
- 一 甲日中彦二十年加得合於あし八人持持と下
- 一 甲日小玉七右の甲免以日元日介と口出と
- 一 全月空林受香
- 一 正保四 正月元日と
- 一 新日めあ年江戸 山屋文 山目元有
- 一 二日めあ年と申老やうそくを 山屋文と申
- 一 五日 大油之極下 山目元 山屋文
- 一 七日也 上様下 已と申極 山目元
- 一 十二日 大油之極少申極年と申 山屋文
- 一 十四日 申うた山神 大油之極申極年と申のひし
- 一 十六日 申うた九條極申道行と申と申
- 一 十七日 申うたと申と申山 山屋文と申
- 一 廿五日 申うた山下申と申と申 山屋文と申

- 一 廿九日 申うたと申と申 山屋文と申
- 二月七日 初卯
- 一 十日 申うたと申と申 山屋文と申
- 一 十一日 申うたと申と申 山屋文と申
- 一 廿七日 申うたと申と申 山屋文と申
- 三月六日
- 一 為 上役申根と申と申 山屋文と申
- 一 七日 為 上役能也と申と申 山屋文と申
- 一 十日 為 申うたと申と申 山屋文と申
- 一 廿一日 為 上役能也と申と申 山屋文と申
- 一 廿五日 為 申うたと申と申 山屋文と申
- 一 日 申うたと申と申 山屋文と申
- 一 廿五日 申うたと申と申 山屋文と申



四月新

- 一 至侍中使能後及侍中使于外中其家之似五人日中言
- 一 丁中振也少振之三因相也尚二摩三平也
- 一 十甲日仙言侍中使于中大方多上生中來也
- 一 十甲日仙言侍中使于外中其家元十人日中
- 一 振舞少振多之つとれ俄に侍中使于外中其家元十人日中
- 一 兼平西左の一神と云 十支又 一神葉指 海士 熊坂
- 一 一若老 十支若老 十支又 一神葉指 海士 熊坂
- 一 三九海士若老 中下也
- 一 十七日仙言の能侍元十支若老 中下也
- 一 侍中使于外中其家元十人日中 二十七日町殺四十二下老人
- 一 百十二人あひまちは七老人人年高死くつとれた志をす
- 一 廿二日若 上使中根若侍中使于外中其家元十人日中
- 一 又使中根若侍中使于外中其家元十人日中
- 一 廿五日若 上使中根若侍中使于外中其家元十人日中

- 一 多投中給百 大酒之保分侍中使于外中其家元十人日中
- 一 廿五日仙言の能侍元十支若老 中下也
- 一 廿六日仙言 侍中使于外中其家元十人日中
- 一 廿八日仙言 侍中使于外中其家元十人日中
- 一 廿九日仙言 侍中使于外中其家元十人日中

五月  
大守公の戸出立  
六月 中うた 侍中使于外中其家元十人日中  
九月 大守公仙言下七支若老 侍中使于外中其家元十人日中  
十月 侍中使于外中其家元十人日中  
十一月 侍中使于外中其家元十人日中  
十二月 侍中使于外中其家元十人日中







舟二さう差せ廿二十百余爲上役井上筑後及山崎權  
八平政この不せもし人殺入二平うとほそ川及ちくま皮  
松平おき及せを之候吉原良おかさら及せ勝とう左方  
人殺二を二平せら仰せし二時二内二老中二片念金  
とせせもくせ勝く中役者入二平うと中意伊勢力  
舟二平介二重名左方二身は方二二二  
十九日平田長ら落る  
廿日加のそくたき一 中土中とも二  
廿日言清あり 山城  
廿日京朝中平至もたせす仙居 榎田素ら仙臺  
白二考二生二二言清あり二  
廿三日登日理伯列中格上元  
廿七日修治日 山城

八月朔日  
登津西江州山城上元子岳加めの女初る 中目見

甲子七月山城  
五日新助三三後庭米女中格上元仙臺 山城  
六日お白戸 甲子初めた格二幸二生二末元爲中史  
去大條三三三三三三三三 大守二山城  
片念小十希とおせ  
十六日お白戸大橋中 廿日格落る人三人 二二人た  
老入見一也 加

九月五日

白元二片念小十希二表  
日古内之格正煩見也 大守公二爲成  
八日お白戸 裁別公代三年二とむら二茂友二津田二  
十三日いしくら 山城  
十七日石念二山城  
廿日お白戸 山城 檜吉格 中島女格二幸二生二末元  
十



廿八日 船受て人吉と為成申相交申有 言砂  
一 松風 松河 三田 あま 申とも余ん  
あり 船受て人吉と為成申相交申有 言砂  
十月三日

お江戸 船下 言砂 延保 松の意人 やく 申出  
十八日 古川 申出 言砂  
十月三日

古川 山形城

九月 岩屋 申出 言砂

十日 岩屋 申出 言砂

十三日 岩屋 岩屋 山形 申出 言砂

十五日 岩屋 山形城 仙臺 山形 申出 言砂

十六日 岩屋 山形 申出 言砂 中山 申出 言砂 山形 申出 言砂

老松 山形 三輪 松古 申出 言砂

十七日 船 申出 言砂 山形 申出 言砂 老松

一 松風 三田 あしかり 海士

十九日 江戸 山形 林丹 山形 申出 言砂

廿一日 丹波 山形 申出 言砂

廿三日 岩屋 古川 山形 申出 言砂

廿六日 山形 申出 言砂 山形 申出 言砂

大守 山形 申出 言砂 山形 申出 言砂

廿九日 山形 申出 言砂 山形 申出 言砂

大守 山形 申出 言砂 山形 申出 言砂

年終 七五三 申出 言砂 山形 申出 言砂

山形 申出 言砂 山形 申出 言砂

言砂 三田 申出 言砂

一 言砂 八吉 大権十市 太吉 申出 言砂

市元 小吉 申出 言砂



一 田村

十支 左市番  
八支 清花

五支 年

一 芭蕉

久支 甚支番  
茂番 五支 八

甚支 八

一 三葉栲

十支 古市番  
八支 七 十市

五支 七

一 橋本

十支 甚支番  
以支 三市 五市 八

七 七

一 櫻之礼

八支 甚支番  
市元 五市 八

七 七

一 櫻之礼

八支 甚支番  
市元 五市 八

七 七

あそり

小支 七

大山 八

佐支 八

三人 八

清支 七

名人 八

万支 七

大守公 岩屋下 山出

二日おき 丹波 及之 振也

大守公 仙臺下 中尾 成

九日 山津 願之 鶴 志 下 山 橋 迫 山 能 七 支 有 得 一 支

山 下 八 支 有 甚 支 八 支

翁

三市 八

小支 七

一 外生 山

八支 八

一 清 花

八支 八

甚支 七

五支 七

一 松 風

十支 八

甚支 七

甚支 八

一 葵 上

八支 八

甚支 七

佐支 八



一考六 八古ら 古市番 五古ら

一考七 十支 權十市 五市七

一考八 十支 古市番 五市七

一考九 八古ら 古市番 七

一考十 八古ら 古市番 七

一考十一 八古ら 古市番 七

一考十二 八古ら 古市番 七

一考十三 八古ら 古市番 七

一考十四 八古ら 古市番 七

一考十五 八古ら 古市番 七

一考十六 八古ら 古市番 七

一考十七 八古ら 古市番 七

一考十八 八古ら 古市番 七

一考十九 八古ら 古市番 七

一考二十 八古ら 古市番 七

一考二十一 八古ら 古市番 七

一考二十二 八古ら 古市番 七

一考二十三 八古ら 古市番 七

一考二十四 八古ら 古市番 七

大慈院君年譜

正保四年丁亥春正月如例二月江府桶町失火有谷自西国  
告未曰韃虜攻大明福州夏四月十二日仙臺火薛亡二十餘家  
時以前年大水之故倉廩未實賒寶千京以賑困人是月以交  
替得暇優賜加例



嗣君幕下羅錢如例五月九日大守歸藩城是月十  
 四日江府地震南自小田原北至千栗橋大守遣使伺體  
 様石田大膳以老病死子長門嗣焉田中氏勘左工門  
 曾以恩倖仕左右有過蹉自耻焉六月十六日去国爲  
 僧名會通是歲爲亡子光宗建寺于松島山瑞巖寺  
 側拜圓通院秋七月十六日大雨洪水暴張山明城下橋  
 冬十一月 大君幕下使林氏某送鷹執手鶴一雙  
 于藩城仙臺賜之大守出郭而迎焉其馳走贈物  
 皆如故事受佩刀其餘還焉是月林氏發客館  
 觀松島而直歸江府  
 記 祿拔香八  
 一 正保四年二月十二日 大猷院様能勢小十市爲

上使密相一第 右宗洋領之由  
 一 曰廿七日 大猷院様能勢小十市爲上使枝柿  
 右宗洋領之由  
 一 曰廿年三月廿日 大猷院様右宗而下爲 上使中  
 根之志書下之由  
 一 曰月七日 大猷院様能勢小十市爲 上使 中書之  
 右宗洋領之由  
 一 曰月廿日 大猷院様能勢小十市爲 上使 中書之  
 右宗洋領之由  
 一 曰年四月十二日 大猷院様能勢小十市爲 上使 中書之  
 右宗洋領之由  
 一 曰月廿三日 大猷院様中根之志書爲 上使 忠宗  
 領之由 去年地震洪水皆由仙臺城之火子世之由  
 右宗洋領之由 上之由  
 一 曰月廿五日 大猷院様松平伊豆守爲 上使 忠宗  
 領之由 中書之由 銀子手板之由 後百洋領之由  
 右 者有







一 中七種ノ世元ニ良覚院員志とナリシ事ニ良覚院員  
ノ多寡者ナリト云得テ一ノ事ニ志返言ナリ者志と  
シテ記録ト載ス

一 熊谷十三衛ノ下四人去々年去々年中進退ト言ナリ  
者有

一 熊谷十三衛小田色ニ後大童花ハ永ノ節力者四人  
ノ改元并切核ラ作ナリ有在ク然ル中飛入者ナリ  
ハ古ノ内熊谷十三衛ハ去々年分沙三人ハ去々年分  
ノ年分内未分ノ旁繫ルナリ多員百七ノ核ノ数ナリ  
亦古ノ中修ラ以上

正保四年  
二月十三日

因懐  
内記

依及言及

赤井傷中及

古ノ刻巻ニ言及者ニ言ニ事系子長古ノ志士ニ言  
ル事ナリ  
山記録ト云載ス

一 四月十二日大々ノ改修

正保四年四月十四日仙臺大々ノ改修

左ノ左ノ事ニ言及者ニ言ニ事系子長古ノ志士ニ言  
ル事ナリ  
山記録ト云載ス

一 乙毎田大橋

治戸大橋

外人志仁寺

茂庭園防

高窪寺惣寺

桑山大學

原田甲斐

大條ハ女

若田但馬

古 市板

石川大和夜

伊志深西夜

増田羽豆

針生頼貞

古田内匠

芝内因懐

玄野新橋

小倉若十市

黒木若十市

八谷仁三橋

巖原若十市

久世久右

氏本新橋

玄 初 柳



大河内信  
日星甚遠  
山内因甚  
三河九席松  
大和因言  
山之古名  
内高橋海  
片山五帝  
良覺小沙  
白名太帝  
大善院  
香山五帝  
横山甚  
河内九左

木下源助  
沼邊治女  
室中三左  
木下常刀  
生助助  
西井七左  
河内大  
白石中十  
大工治左  
成田源  
船貝兵  
秋保中  
河内七  
河内七

高橋源吉  
大河内治  
木下茂  
松本伊  
大河内十  
大保次  
河内小  
熊谷三  
良覺院  
麻投甚  
芳賀伊  
武田  
河内  
河内十

只野易者

本荒河

河内七

和久掃  
赤葉次  
河内治  
我妻  
伊度  
河内  
河内伊

袋所

三子也  
銀也伊  
能治  
能治  
河内  
河内伊

松井次  
河内次  
佐藤  
河内清  
河内作  
少保

三子也  
日  
河内  
河内  
河内  
河内

小沼少  
中條宗  
吉田九  
河内茂  
河内七  
河内伊

三子也  
日  
河内  
河内  
河内  
河内



川 十彦  
早川吉彦  
後庭権左  
徳川十彦  
赤坂其彦  
赤坂茂人  
寺尾及源市  
河田六彦  
河田七彦  
寺崎七彦  
佐々木信治  
梅田三彦  
小栗権左  
河田八彦  
八乙女吉彦

篠田九助  
早川吉彦  
寺尾及十助  
黒澤久彦  
赤坂権内  
大塚源三  
中島井彦  
木崎三斗  
木崎作左  
支倉治彦  
赤坂  
寺尾及十彦  
赤坂清十彦  
小川定彦  
中地吉彦

山崎市彦  
小木吉彦  
松代九彦  
相原其彦  
寺尾及吉彦  
増子権三  
山本久助  
寺崎源三  
西自清彦  
栗本源助  
岸十彦  
寺崎年久  
小栗川吉彦  
高橋吉彦

草川吉彦  
赤川五彦  
中條三彦  
多川吉彦  
草壁三彦  
永井三彦  
石田三彦  
松元教彦  
吉橋  
松坂九彦  
木田陽政  
後庭源彦  
寺尾三彦  
寺尾万彦  
大之目信彦

大塚吉彦  
大河白彦  
富田彦吉  
篠田六彦  
新田市彦  
木村教彦  
篠田吉彦  
篠田三彦  
兼悦  
山崎作彦  
山崎伊彦  
市橋信彦  
卜吉  
日守信彦  
甲田十彦

佐々木吉彦  
井邊五彦  
小島吉彦  
細谷十彦  
坂市彦  
中島三彦  
小野八彦  
藤井吉彦  
松本十彦  
佐藤権彦  
南十彦  
梅田源彦  
松尾源彦  
宮内六彦



富屋久之三馬  
谷 普左の

右江文左の  
松尾九三馬

中右加吉の

甲田甚三馬

中右公市吉の

木懐作吉の

吉屋敷三馬

富澤又三馬

芝 色

山崎 普六

櫻田作茂

木懐源七

赤井 信中

戸澤 信左の

松信 普十市

武田 信六

多橋 吉三馬

伊藤 次左馬

吉屋 加左の

角井 六左の

櫻井 八左の

幸屋 心仙春

安積 七左の

淡山 芝高

相江 如女

吉田 作茂

中右 權常市

松尾 信吉の

大産 吉常市

大塚 吉常市

吉屋 半吉の

小田 進三馬

大泉 浦六

小波 三左の

尾木 吉作

木右 百助

吉川 吉的

吉屋 七右市

淡原 源左の

大和 内亮女

水屋 五右の

西大 立目右の

飯坂 吉内

内子 福次高の

有住 内借

吉島 山右の

只木 信俊

紺平 五右市

平内 源次女

麻屋 常市

恒松 内亮女

吉屋 久之左の

菱入 会源常市

麻屋 内亮女

志右 三馬

弟也 六右の

吉屋 普左の

小梨 内亮

砂屋 源作

吉屋 普左の

吉波 普左の

門百 源平

吉屋 普左の

永倉 清吉の

松尾 三左の

池田 八市三馬

大内 源次高の

二麻 役 景吉

植松 如吉の

武田 利右の

長崎 源吉

鈴木 三平

栗屋 源吉の

篠田 信三馬

相ヶ屋 源吉

吉屋 普左の

吉田 河治三馬

河右 象亮

石川 三右の

中右 三馬

小橋 山三馬



伊豆菅原  
依良源左  
只世清左  
住山菅原  
廣田左左  
安之保新左  
色良右左  
冥源六左  
恒保五左  
杉木之左  
小色次左  
大之目左  
相ヶ谷次左  
西田左左

二之兵十左  
於木作左  
大河原三左  
今右菅原  
高山右左  
横保左左  
依良其左  
多ヶ谷市左  
本内次左  
大内清次  
山中右左  
石川右左  
源下清左  
精持三左

横保半左  
宗光  
氏家次左  
大内七左  
本内小左  
田中伸左  
宗良右左  
幸左左左  
平井保左  
依良市左  
本内清左  
二之目左  
山崎清左  
福原七左  
横保平左

山崎次左  
新田次左  
土屋左左  
栗山十左  
板保二左  
杉原右左  
清右七左  
三浦伊左  
野山利助  
恒 真人  
栗冲又左  
橋元清左  
平左左左  
三浦新左

清水小次

左之又左  
源止右左  
色左左左  
小玉傳左  
源田右左  
足立三左  
根中傳左  
白石布六  
山崎知左  
矢内清九  
舟迫右左  
山崎太左  
幸左左左

古田右左  
福田半左  
色左又左  
友三  
七之目左  
五之目左  
玉右左左  
松本左左  
永倉左左  
前左七左  
源田上左  
幸左左左



武深右三浦  
日七希左八  
上生權左更  
田手把前  
白石吉善  
初井吉光  
安之津如幸  
相田吉光  
吉山三内  
黒深源左八  
吉津吉其光  
貝田三市  
矢部市重  
大内五三  
火之石久助

渡了雅重  
南 次希助  
松前市正  
石川信濃  
葛西雅采  
上野山九八  
色坂源吉  
蒲生雅采  
日五市重  
能之次重  
溝口信左  
加ふく久  
赤坂八市重  
返及如三市  
島崎清吉

無可新左八  
柳生権吉  
志賀如之  
茂庭大茂  
百天山一  
一色七左八  
出原正吉  
横山普七  
宇津志重  
橋之上三市  
桑原左市  
梅津九茂  
氏家重吉  
大浦清吉  
昭則清市

松元吉左  
日野三内  
小島并伊集  
貝山右三  
大槻五重  
飯塚吉善  
後生源吉  
赤首正八  
伊波三吉  
鈴木新吉

麻段清吉  
室白藏下  
早崎信七  
袋左重  
坂口左八  
櫻田重左  
坂 左内  
右富重  
八島助茂  
赤澤清左

片倉長四市  
依藤甚平  
平井源吉  
松崎半吉  
松元清左  
細目十市  
吉山清吉  
金子市光  
鈴木長吉

新八幡  
遍照寺  
陽雲寺  
新寺  
保善寺  
法雲寺  
新寺

松音寺



大徳寺  
けいさやう院

大林寺

妙松院

茶師とて海老通

- 松坂九市右衛門多右衛門之是怪十二人
- 杉指三斗多右衛門之是怪十人
- 廣田彦左衛門多右衛門之是怪十九人
- 松尾三左衛門多右衛門之是怪十八人
- 只理七三衛多右衛門之是怪廿二人
- 石田但馬守多右衛門之是怪十九人
- 若尾治行多右衛門之是怪所
- 大槻内蔵女多右衛門之是怪二十人
- 古河内膳吉多右衛門之是怪廿一人
- 新山忠右衛門多右衛門之是怪廿一人
- 谷地小治多右衛門之是怪所
- 二本三右衛門多右衛門之是怪廿一人

小松寺  
大徳寺  
大林寺  
妙松院  
茶師とて海老通  
若尾治行多右衛門之是怪所  
松尾三左衛門多右衛門之是怪十九人  
松坂九市右衛門多右衛門之是怪十二人  
杉指三斗多右衛門之是怪十人  
廣田彦左衛門多右衛門之是怪十九人  
只理七三衛多右衛門之是怪廿二人  
石田但馬守多右衛門之是怪十九人  
大槻内蔵女多右衛門之是怪二十人  
古河内膳吉多右衛門之是怪廿一人  
新山忠右衛門多右衛門之是怪廿一人  
谷地小治多右衛門之是怪所  
二本三右衛門多右衛門之是怪廿一人

- 高屋外池多右衛門之是怪十三人
- 丹波守多右衛門之是怪十一人
- 桑内多右衛門多右衛門之是怪廿一人
- 高井九三衛多右衛門之是怪廿一人
- 今米四右衛門多右衛門之是怪十三人
- 武山少右衛門多右衛門之是怪七人
- 多右衛門多右衛門多右衛門之是怪十七人
- 平柳少右衛門藏人一字廿八人
- 後庭園所屋
- 交下口藏人四人
- 日形所末大之所二十八人
- 中多右衛門二十人
- 大河一丁目二丁目五十九万一字
- 三丁目四丁目五丁目
- 八十九万半自一百半死人数十仁人
- 者所八十二万一字死人数十仁人一百半







日年健田色江流上之侍由赤成十枚  
 正保五年二月十日一迫由赤成十五枚  
 正保五年四月廿日夏山由赤成十枚  
 二月八日之由赤成古田主猪子由赤成十枚  
 三月十日由赤成、高由赤成、内津田色由赤成十枚  
 三月廿七日之由赤成中急由赤成、庭由赤成、片  
 山由赤成、高由赤成、山由赤成、十枚  
 三月廿八日茂庭大隅由赤成十枚  
 四月廿日之由赤成、主斗由赤成、山由赤成十枚  
 吉十四日之由赤成、上之由赤成、十枚  
 然此史礼中力、然、此故地素重、  
 一日是山由赤成、山由赤成、山由赤成、  
 次之、山由赤成、山由赤成、山由赤成、  
 古月十九日

正保五年二月十日一迫由赤成十五枚  
 正保五年四月廿日夏山由赤成十枚  
 二月八日之由赤成古田主猪子由赤成十枚  
 三月十日由赤成、高由赤成、内津田色由赤成十枚  
 三月廿七日之由赤成中急由赤成、庭由赤成、片  
 山由赤成、高由赤成、山由赤成、十枚  
 三月廿八日茂庭大隅由赤成十枚  
 四月廿日之由赤成、主斗由赤成、山由赤成十枚  
 吉十四日之由赤成、上之由赤成、十枚

正保五年二月十日一迫由赤成十五枚  
 正保五年四月廿日夏山由赤成十枚  
 二月八日之由赤成古田主猪子由赤成十枚  
 三月十日由赤成、高由赤成、内津田色由赤成十枚  
 三月廿七日之由赤成中急由赤成、庭由赤成、片  
 山由赤成、高由赤成、山由赤成、十枚  
 三月廿八日茂庭大隅由赤成十枚  
 四月廿日之由赤成、主斗由赤成、山由赤成十枚  
 吉十四日之由赤成、上之由赤成、十枚  
 然此史礼中力、然、此故地素重、  
 一日是山由赤成、山由赤成、山由赤成、  
 次之、山由赤成、山由赤成、山由赤成、  
 古月十九日  
 正保五年二月十日一迫由赤成十五枚  
 正保五年四月廿日夏山由赤成十枚  
 二月八日之由赤成古田主猪子由赤成十枚  
 三月十日由赤成、高由赤成、内津田色由赤成十枚  
 三月廿七日之由赤成中急由赤成、庭由赤成、片  
 山由赤成、高由赤成、山由赤成、十枚  
 三月廿八日茂庭大隅由赤成十枚  
 四月廿日之由赤成、主斗由赤成、山由赤成十枚  
 吉十四日之由赤成、上之由赤成、十枚











高尾山以史考中上之治意刻  
山本二為之七形之五性護之

七月廿五日

德井讓治書札

松平伊豆書札

阿戸芝居書札

阿戸芝居書札

人々中

龜松松之介例未結と云々  
以史考中上之治意刻  
山本二為之七形之五性護之

七月廿五日  
堀田加賀守書札  
中根吉成書札

人々中  
龜松松之介例未結と云々  
以史考中上之治意刻  
山本二為之七形之五性護之

七月廿五日  
堀田加賀守書札  
中根吉成書札

人々中  
龜松松之介例未結と云々  
以史考中上之治意刻  
山本二為之七形之五性護之

七月廿五日  
堀田加賀守書札  
中根吉成書札

人々中  
龜松松之介例未結と云々  
以史考中上之治意刻  
山本二為之七形之五性護之

七月廿五日  
堀田加賀守書札  
中根吉成書札

人々中  
龜松松之介例未結と云々  
以史考中上之治意刻  
山本二為之七形之五性護之

七月廿五日  
堀田加賀守書札  
中根吉成書札

人々中  
龜松松之介例未結と云々  
以史考中上之治意刻  
山本二為之七形之五性護之

七月廿五日  
堀田加賀守書札  
中根吉成書札

人々中  
龜松松之介例未結と云々  
以史考中上之治意刻  
山本二為之七形之五性護之

七月廿五日  
堀田加賀守書札  
中根吉成書札

人々中  
龜松松之介例未結と云々  
以史考中上之治意刻  
山本二為之七形之五性護之

七月廿五日  
堀田加賀守書札  
中根吉成書札

人々中  
龜松松之介例未結と云々  
以史考中上之治意刻  
山本二為之七形之五性護之

七月廿五日  
堀田加賀守書札  
中根吉成書札

人々中  
龜松松之介例未結と云々  
以史考中上之治意刻  
山本二為之七形之五性護之

七月廿五日  
堀田加賀守書札  
中根吉成書札

人々中  
龜松松之介例未結と云々  
以史考中上之治意刻  
山本二為之七形之五性護之

七月廿五日  
堀田加賀守書札  
中根吉成書札

人々中  
龜松松之介例未結と云々  
以史考中上之治意刻  
山本二為之七形之五性護之



古くは秋の古式を移し認し已上

學者

石田五希三郎 吉吉  
矢野甚左衛門 吉吉  
志山新平 吉吉  
片平伊勢 日

一古中ノ志 上極少様煉能と奉る事は古式に依りて  
七折の終に少折物に於て志  
上極少様進上は長靴一羽始りて百折進上は料理  
可成り古折後言に依りて古式に依りて  
秋若ら多入秋ぬれし古式下古式古式に依りて

八月廿日

河井謙政書

人々中

古くは秋の古式を移し認し已上

學者

石田五希三郎 吉吉  
矢野甚左衛門 吉吉  
志山新平 吉吉  
片平伊勢 吉吉

一古中ノ志 上極少様煉能と奉る事は古式に依りて  
七折の終に少折物に於て志  
上極少様進上は長靴一羽始りて百折進上は料理  
可成り古折後言に依りて古式に依りて  
秋若ら多入秋ぬれし古式下古式古式に依りて

九月廿九日

河井謙政書

人々中

然以能九十九 大御方様之御色中御後之能也 域  
と奉る事は古式に依りて古式に依りて古式に依りて  
古式に依りて古式に依りて古式に依りて古式に依りて







十一月七日

阿ノ為ノ手紙

筆名

石田五右衛門

武田五右衛門

片平伊勢

台徳院様

一筆啓上之儀

未二月 台徳院様

上末四月

上様

日光下

口上ノ合々ノ上様

御前ノ合々ノ御前

筆名

片平伊勢

阿ノ為ノ手紙

片平伊勢

伊井掃ノ手紙

あまのきよとて

筆名

石田五右衛門

武田五右衛門

片平伊勢

津田五右衛門

片平伊勢

武田五右衛門

片平伊勢

武田五右衛門

片平伊勢

武田五右衛門

片平伊勢

武田五右衛門

片平伊勢







武田信元

然以能辨之... 武田信元... 正保五年

十二月十二日

松平信房

武田信元

單表

石田五右衛門

武田五右衛門

津田五右衛門

片平伊勢

一 武田信元... 正保五年... 武田信元... 正保五年

松平信房

武田信元

正保五年

石田五右衛門  
武田五右衛門  
津田五右衛門  
片平伊勢

一 武田信元

正保五年

一 武田信元... 正保五年... 武田信元... 正保五年

石田五右衛門  
武田五右衛門



先世山以古扶中ノ少孫始為河津ノ外ニ至リテ  
百ノ孫又々之ノ先有クハ世生ニクハ行安ニ有クハ  
伊勢守ノ少一羽ノ進ノ少孫ノ昔在古述ノ少  
之ノ少孫也

五月八日

一 松田 津田 佐平 松

津田

一 津田 佐平 松  
公方様少ノ少孫始為河津ノ外ニ至リテ  
百ノ孫又々之ノ先有クハ世生ニクハ行安ニ有クハ  
伊勢守ノ少一羽ノ進ノ少孫ノ昔在古述ノ少  
之ノ少孫也

石田五平三衛門 幸

武田五平左衛門 幸

津田色白

津田色白

津田色白

先世山以古扶中ノ少孫始為河津ノ外ニ至リテ

百ノ孫又々之ノ先有クハ世生ニクハ行安ニ有クハ  
伊勢守ノ少一羽ノ進ノ少孫ノ昔在古述ノ少  
之ノ少孫也

五月九日

一 松田 津田 佐平 松  
公方様少ノ少孫始為河津ノ外ニ至リテ

百ノ孫又々之ノ先有クハ世生ニクハ行安ニ有クハ  
伊勢守ノ少一羽ノ進ノ少孫ノ昔在古述ノ少  
之ノ少孫也

五月九日

一 松田 津田 佐平 松  
公方様少ノ少孫始為河津ノ外ニ至リテ

百ノ孫又々之ノ先有クハ世生ニクハ行安ニ有クハ  
伊勢守ノ少一羽ノ進ノ少孫ノ昔在古述ノ少  
之ノ少孫也

五月九日

一 松田 津田 佐平 松  
公方様少ノ少孫始為河津ノ外ニ至リテ

百ノ孫又々之ノ先有クハ世生ニクハ行安ニ有クハ  
伊勢守ノ少一羽ノ進ノ少孫ノ昔在古述ノ少  
之ノ少孫也

五月九日

一 松田 津田 佐平 松  
公方様少ノ少孫始為河津ノ外ニ至リテ

百ノ孫又々之ノ先有クハ世生ニクハ行安ニ有クハ  
伊勢守ノ少一羽ノ進ノ少孫ノ昔在古述ノ少  
之ノ少孫也



此札既啓上之様、恙多根中誕生之生至、其目  
出生之時、位之為中、祝公以目録之進上は、中次多  
刻、此前可移根之形、松山在解重口上之十合、  
正性神々

正月十四日

松平伊豆守様

阿久野守様

阿久野守様

文書

松平和泉守様

杉山内通及様

一通

以之札既啓上之様、恙多根中誕生之生至、其目  
出生之時、位之為中、祝公以目録之進上は、中次多  
刻、此前可移根之形、松山在解重口上之十合、  
正性神々

正月十四日

伊井權左衛門様

阿久野守様

中津藩守様

各通

一、此之様上之様、中津藩守様、城守様、  
通方守様、上津藩守様、各守一、相済進上之様、  
恙多根中誕生之生至、其目録之進上は、中次多  
刻、此前可移根之形、松山在解重口上之十合、  
正性神々

阿久野守様

阿久野守様

阿久野守様

阿久野守様

阿久野守様

学書

石田守希善守様

矢野甚左衛門守様

津田守守様

片平伊勢守様

松平伊勢守様



情勢と進江中様御座る事と申す重宝目出波申す事

五月廿五日

河井漢波右様

松平伊豆右様

河内芝居右様

河内芝居右様

芝居右様と申すは木末の

各通

石田中様

石田中様

一筆書上之様也 台座院様申す事意申す事

鄭生申す事申す事 申す事申す事 申す事申す事

五月廿九日

古田傳中右様

一筆書上之様也 台座院様申す事意申す事

為る事申す事申す事 申す事申す事 申す事申す事

五月廿九日

松平伊豆右様

河内芝居右様

河内芝居右様

河井漢波右様

一筆書上之様也 台座院様申す事意申す事

石田中様

矢野甚右右様

石田中様

片平伊豆右様

一筆書上之様也 台座院様申す事意申す事



正月十九日  
少元久幸之報

筆者

石田右希三傳 幸  
矢野甚左衛門 幸  
津田色白 幸  
片平伊勢 幸

一筆政略上之書を傳及少元久幸之報  
有る旨を報いしに本報と目出度く生ずるに  
たす進んでいふこととすに正性傳之

正月二十日

片平伊勢之報

筆者

石田右希三傳 幸  
矢野甚左衛門 幸  
津田色白 幸  
片平伊勢 幸

一筆政略上之書を傳及少元久幸之報  
有る旨を報いしに本報と目出度く生ずるに  
たす進んでいふこととすに正性傳之

正月二十日

片平伊勢之報

筆者

石田右希三傳 幸  
矢野甚左衛門 幸  
津田色白 幸  
片平伊勢 幸

一筆政略上之書を傳及少元久幸之報  
有る旨を報いしに本報と目出度く生ずるに  
たす進んでいふこととすに正性傳之

正月二十日

片平伊勢之報







然以形神既結之申息極少之故遂至重之深也其心  
元者之言之極之可之信之極也其心之極也其心之  
生之極也其心之極也其心之極也其心之極也其心之

二月廿五日

以仁禮上疏之極也

石田而帝三傳之

筆志

武田而帝三傳之

津田而帝三傳之

片平而帝三傳之

以仁禮上疏之極也 大禮云探始之年也 申殿上  
為成少探始之年也 申殿上 申殿上 申殿上 申殿上  
申殿上 申殿上 申殿上 申殿上 申殿上 申殿上

三月四日

松平伊豆守

伊豆守

伊豆守

伊豆守

伊豆守

三月四日

伊豆守

伊豆守

伊豆守

各道

石田而帝三傳之

武田而帝三傳之

津田而帝三傳之

片平而帝三傳之

三六



今被 大酒之採 中利之遊 遊子 採目出被  
中前之務 採之形 於使若 早令 中令 五性 採之

三月九日

伊丹澤田寺松

松平伊豆寺松

松平内匠乃松

日守之云

各通

松平伊豆寺松  
伊丹澤田寺松  
中利之遊  
遊子 採目出被  
中前之務 採之形 於使若 早令 中令 五性 採之  
三月九日

伊丹澤田寺松

松平伊豆寺松

松平内匠乃松

各通

伊丹澤田寺松

石田寺希三郎 奉  
津田色白 奉

片平伊勢 奉

今被 大酒之採 中利之遊 遊子 採目出被  
中前之務 採之形 於使若 早令 中令 五性 採之

三月廿三日  
伊丹澤田寺松  
松平伊豆寺松  
松平内匠乃松



今更書 上様 日光 山某訪名將自出夜中依  
為山院更目錄之通改進上 山前より移移車  
松後危大隅口上中合々上様海々

三月廿三日

松平伊豆右様

阿平芝坂古様

阿平芝坂古様

阿平芝坂古様

進上以上

今更書 上様 日光

山某訪名將自出夜中依  
依之為山院更目錄之通改進上 山前より移移車

松後危大隅口上中合々上様海々

三月廿三日

山井澤清右様

堀田加賀守様

中根吉右様

杉本氏中補様

物産佐伯古様

伊丹掃中右様

各通

今更書 大隅左様 日光 山某訪名將自出夜中依

依之為山院更目錄之通改進上 山前より移移車

松後危大隅口上中合々上様海々

三月廿三日

松平和采古様

上様 日光 山某訪名將自出夜中依

中と山史者中より日光を移るべくおのり山前より移移車

依之為山院更目錄之通改進上 山前より移移車

口上中合々上様海々

三月廿三日

松平吉右大補様







中前可成根之新公控上之平人食之正性誨之

三月廿七日

大久保主斗根

孝之叔藏了根

古之通也命之取認し

平松

石田五右衛門

矢野甚左衛門

武田五右衛門

津田色白

片平伊勢

之故也 上様 日光 中集 諸君 保固 出立 及 之 依

之 依 志 為 在 之 上 旨 之 務 公 控 上 之 平 人 食 之 正 性 誨 之

兼 亦 之 是 或 之 心 先 之 務 之 心 是 具 可 之 進 入 之 控 政

三月廿七日

石田五右衛門

衣松通五郎根 各通

多生傳後也根

古之通也命之取認し

石田五右衛門

武田五右衛門

津田色白

片平伊勢

石田五右衛門

武田五右衛門

津田色白

片平伊勢

一 平政 啓 之 終 公 方 様 中 様 控 能 日 光 中 集 諸 君 保 固 出 立 及 之 依 志 為 在 之 上 旨 之 務 公 控 上 之 平 人 食 之 正 性 誨 之

可 成 之 是 或 之 心 先 之 務 之 心 是 具 可 之 進 入 之 控 政

兼 亦 之 是 或 之 心 先 之 務 之 心 是 具 可 之 進 入 之 控 政

四月十日

中前可成根

松平初永根

古之通也命之取認し

各通

石田五右衛門

武田五右衛門



石田五右衛門  
矢野甚左衛門  
武田五右衛門  
津田色白  
片平伊勢  
一筆之緒と終に公方様御始能去千三百  
日光 山家訪主と保固土波中より  
大内之様御始能去千三百  
終極の結末より終極より終極より  
四月十六日  
安後古京近根  
古京の出来を終極より終極より  
石田五右衛門  
矢野甚左衛門  
武田五右衛門

日光御始能去千三百  
公方様御始能去千三百  
各様御始能去千三百  
終極の結末より終極より終極より  
四月十六日  
片平伊勢  
乃戸甚左衛門  
阿戸甚左衛門  
日光御始能去千三百  
片平伊勢  
乃戸甚左衛門  
阿戸甚左衛門  
日光御始能去千三百  
片平伊勢  
乃戸甚左衛門  
阿戸甚左衛門



朽木氏了十補板

松平利永古板

河井河内古板

吉通

古き古成八板と認

吉通

石田右衛門三衛門

矢野甚左衛門

武田右衛門左衛門

吉備右衛門

津田色白

片平伊勢

松平伊豆古板  
阿平甚左古板  
阿了甚左古板  
古き古成古板と認

四月廿六日

古き古成古板と認

吉通

石田右衛門三衛門

矢野甚左衛門

武田右衛門左衛門

津田色白

片平伊勢

吉通

日老

山本清

四月廿六日







茂庭修月之山 義山様下紙中書之受日年五月  
佐月之山紙之通之 何牙之山

一 要山様下殿成能修書之有書指和尚記有之字

一 要山様下殿之記松急陽之書有之字

正保四年五月言后培植控現在六方果系通院上三

慧殿中開卷於為来三舍去修書守伊水長老伏

惟比之賢殿之仙臺有矣 伊之右宗公之七子

智白之殿貞山大指士志源松平哉方与光宗之之法

各系通院殿前於送補額要實公大禪定以之具

殿之

忠宗公令侍臣山内記重如造之正与宿吏

釋史

二 玄子助

少内八左内

言務市美

中目助右内

福因半之元

戸石久之三傳

象城与伊美傳

中堂与三傳

新貝之三傳

大茂右助

和葉甚吉内

平塚之四房

首修利三傳

中山作内

以知掃了

石田七三傳

言務女吉内



大工棟梁

落合助吉  
内茂右三郎

招棟梁

若生源三郎  
三羅加吉  
山田外記

継任

小林七郎  
永田春三郎  
金又七郎

盡工

雲外庵主布廣月判  
標亮於一華堂内  
道田春三郎

糸通院以曆二年河名和尚建立

一 松本出云

一 松本源後之出

正保四年六月田知右衛門一宗と其弟春松高下私

造り親又松本出云と其子山田外記と其子源後之出

と其子春松高下と其子松本出云と其子源後之出

と其子春松高下と其子松本出云と其子源後之出

一 源口是左の事

源口是左の事

正保四年田中知右衛門の御孫に傳へし第七代源口

是左の事

是左の事

是左の事

是左の事

一 吉田伊勢



吉田安左衛門 吉田

一 正保四年三月吉田伊 實名重播臣故自武氏

吉田伊 吉田伊

一 武及源四帝之知り 吉田伊 武及源四帝之知り

三年之知り 吉田伊 三年之知り

七日之知り 吉田伊 七日之知り

七日之知り 吉田伊 七日之知り

一 堀江伊勢守

一 堀江伊勢守

正保四年堀江伊勢守 實名重播臣故自武氏

七年二十七日吉田伊勢守 實名重播臣故自武氏

堀江伊勢守 實名重播臣故自武氏

堀江伊勢守 實名重播臣故自武氏

堀江伊勢守 實名重播臣故自武氏

堀江伊勢守 實名重播臣故自武氏

一 七年二十四日吉田伊勢守 實名重播臣故自武氏

成生江伊勢守 實名重播臣故自武氏

成生江伊勢守 實名重播臣故自武氏

成生江伊勢守 實名重播臣故自武氏

成生江伊勢守 實名重播臣故自武氏

一 片倉重三郎

一 正保四年三月片倉重三郎 實名重播臣故自武氏

正保四年三月片倉重三郎 實名重播臣故自武氏

一 石母田大膳

一 石母田大膳 實名重播臣故自武氏

正保四年七月石母田大膳 實名重播臣故自武氏

正保四年七月石母田大膳 實名重播臣故自武氏

正保四年七月石母田大膳 實名重播臣故自武氏

正保四年七月石母田大膳 實名重播臣故自武氏



















中及能之申披きし事申能七千枚自具し

其外山田と申物と有る事申能録し申公  
山能録し申公

一成田本下申成

一成田権内古上

正保四年十二月本田本宅下高入本及九七二市

之振り仰有申能事し事申能事し事申能事し

申能事し事申能事し事申能事し事申能事し

申能事し事申能事し事申能事し事申能事し

申能事し事申能事し事申能事し事申能事し

一 愚保之三傳

一 愚保之文古上

愚保之三傳之号名定長布地十々有及之申能事し

外人の地走申能事し事申能事し事申能事し

公及申能事し事申能事し事申能事し事申能事し

一 百中不立之年

義山様古本取取下申能事し事申能事し事申能事し

事申能事し事申能事し事申能事し事申能事し

事申能事し事申能事し事申能事し事申能事し

事申能事し事申能事し事申能事し事申能事し

一 氏家之主古上

一 氏家之主古上

正保四年十二月古上之事

義山様古本取取下申能事し事申能事し事申能事し

事申能事し事申能事し事申能事し事申能事し

事申能事し事申能事し事申能事し事申能事し

事申能事し事申能事し事申能事し事申能事し

事申能事し事申能事し事申能事し事申能事し

事申能事し事申能事し事申能事し事申能事し

一 卒







上之意者余歡喜豈可言哉自今而後上玩弄此鷹鳥也  
未知經幾春秋乎請為我貝以賀遠大嚴命不獲固辭  
漫贊之云逸翽雄姿絕比倫金眸玉未有類聞說  
大君臂所之生擒活捉自如意天鵝白羊鶴平沙雁百擲  
百回無遺後未遊獵幾春秋有大獲者豈可記

松島沙門希庵月

一 石川大和後生谷地起目辨領之事

三月廿日大和後生谷地起目辨領之事  
上係四年三月廿日也起目辨領之事  
八十廿又七言二十七又

古事記補卷之六

一 古事記四通覽

一 後田利房之事  
上係四年三月廿日也後田利房之事

一 卷上之予也祖父後田公之孫又上係四年三月廿日也  
予初也後田自系於予也後田公之孫又上係四年三月廿日也

一 青木大古

一 上係四年三月廿日也中村公之孫又上係四年三月廿日也  
中村公之孫又上係四年三月廿日也

義山様山代山公之孫又上係四年三月廿日也  
傳之書又上係四年三月廿日也

四月十九日

一 由多崎口之事  
上係四年三月廿日也由多崎口之事  
多文少自之湖乃上係四年三月廿日也

一 上係四年三月廿日也上係四年三月廿日也











初二日 宇治城にて... 上巳節は宇治の河原に... 九日 杉野大尉方... 九日 宇治... 十一日 宇治... 川... 宇治...

一 三月十日... 十一日... 十二日... 十三日... 十四日... 十五日... 十六日... 十七日... 十八日... 十九日... 二十日...



五日 西成様 伊豆

田村 七日 三ノ文 下

上様 日下 十三日 出師 伊豆 越え 伊豆 日廿三

十六日 高橋 あり 主斗 伊豆 下 伊豆 上 伊豆

大助 三様 日光 伊豆 高橋 上 伊豆

廿日 伊豆 高橋 十 伊豆 下 伊豆 上 伊豆 下 伊豆

廿一日 伊豆 高橋 人 伊豆 下 伊豆

廿二日 伊豆 高橋 下 廿八日 伊豆 高橋 下 伊豆

廿三日 伊豆 高橋 下 廿九日 伊豆 高橋 下 伊豆

廿四日 伊豆 高橋 下 三十日 伊豆 高橋 下 伊豆

廿五日 伊豆 高橋 下 三十一日 伊豆 高橋 下 伊豆

廿六日 伊豆 高橋 下 一日 伊豆 高橋 下 伊豆

廿七日 伊豆 高橋 下 二日 伊豆 高橋 下 伊豆

廿八日 伊豆 高橋 下 三日 伊豆 高橋 下 伊豆

廿九日 伊豆 高橋 下 四日 伊豆 高橋 下 伊豆

三十日 伊豆 高橋 下 五日 伊豆 高橋 下 伊豆

三十一日 伊豆 高橋 下 六日 伊豆 高橋 下 伊豆

一日 伊豆 高橋 下 七日 伊豆 高橋 下 伊豆

二日 伊豆 高橋 下 八日 伊豆 高橋 下 伊豆

三日 伊豆 高橋 下 九日 伊豆 高橋 下 伊豆

四日 伊豆 高橋 下 十日 伊豆 高橋 下 伊豆

五日 伊豆 高橋 下 十一日 伊豆 高橋 下 伊豆

六日 伊豆 高橋 下 十二日 伊豆 高橋 下 伊豆

七日 伊豆 高橋 下 十三日 伊豆 高橋 下 伊豆

八日 伊豆 高橋 下 十四日 伊豆 高橋 下 伊豆







作中光

新三帝... 院之... 只良... 以上... 内

多は... 西... 惜... 只良... 只良... 只良...

新三帝... 切... 作... 只良... 只良... 只良...

松平... 後... 年... 十... 三... 四... 只良... 只良...

十月... 廿... 四... 日... 秋... 事... 之... 終... 只良... 只良...

外... 言... 之... 知... 合... 感... 只良... 只良...

口... 古... 七... 日... 秋... 事... 之... 終... 只良... 只良...

口... 古... 七... 日... 秋... 事... 之... 終... 只良... 只良...

方... 上... 馬... 之... 加... 第... 之... 信... 院... 院... 中... 只良... 只良...

中... 書... 司... 孫... 中... 玉... 赤... 只良... 只良... 只良...

内... 紀... 因... 悔... 大... 只良... 只良... 只良... 只良...

十... 月... 廿... 九... 日... 只良... 只良... 只良... 只良...

人... 之... 院... 之... 折... 只良... 只良... 只良... 只良...

合... 討... 只良... 只良... 只良... 只良... 只良...

日... 十... 四... 日... 只良... 只良... 只良... 只良... 只良...

十... 四... 日... 只良... 只良... 只良... 只良... 只良...











廿三日柳生新三葉少雨戸敷ら 伝有  
 廿六日仙臺 山ノ上  
 廿七日山ノ上 大洞立極 日光下 山ノ上 雨 山ノ上 張  
 山ノ上 成 山ノ上 山ノ上 山ノ上 成  
 廿月五日 日光下 山ノ上 山ノ上 成  
 八日 山ノ上 山ノ上 山ノ上 成  
 九日 山ノ上 山ノ上 山ノ上 成  
 十六日 山ノ上 山ノ上 山ノ上 成  
 十八日 山ノ上 山ノ上 山ノ上 成  
 廿日 山ノ上 山ノ上 山ノ上 成  
 廿二日 山ノ上 山ノ上 山ノ上 成  
 廿四日 山ノ上 山ノ上 山ノ上 成  
 廿六日 山ノ上 山ノ上 山ノ上 成  
 廿八日 山ノ上 山ノ上 山ノ上 成  
 三十日 山ノ上 山ノ上 山ノ上 成

道采死去  
 七月 山ノ上 山ノ上 山ノ上 成  
 三十一日 山ノ上 山ノ上 山ノ上 成  
 二日 山ノ上 山ノ上 山ノ上 成  
 三日 山ノ上 山ノ上 山ノ上 成  
 四日 山ノ上 山ノ上 山ノ上 成  
 五日 山ノ上 山ノ上 山ノ上 成  
 六日 山ノ上 山ノ上 山ノ上 成  
 七日 山ノ上 山ノ上 山ノ上 成  
 八日 山ノ上 山ノ上 山ノ上 成  
 九日 山ノ上 山ノ上 山ノ上 成  
 十日 山ノ上 山ノ上 山ノ上 成  
 十一日 山ノ上 山ノ上 山ノ上 成  
 十二日 山ノ上 山ノ上 山ノ上 成  
 十三日 山ノ上 山ノ上 山ノ上 成  
 十四日 山ノ上 山ノ上 山ノ上 成  
 十五日 山ノ上 山ノ上 山ノ上 成  
 十六日 山ノ上 山ノ上 山ノ上 成  
 十七日 山ノ上 山ノ上 山ノ上 成  
 十八日 山ノ上 山ノ上 山ノ上 成  
 十九日 山ノ上 山ノ上 山ノ上 成  
 二十日 山ノ上 山ノ上 山ノ上 成  
 廿一日 山ノ上 山ノ上 山ノ上 成  
 廿二日 山ノ上 山ノ上 山ノ上 成  
 廿三日 山ノ上 山ノ上 山ノ上 成  
 廿四日 山ノ上 山ノ上 山ノ上 成  
 廿五日 山ノ上 山ノ上 山ノ上 成  
 廿六日 山ノ上 山ノ上 山ノ上 成  
 廿七日 山ノ上 山ノ上 山ノ上 成  
 廿八日 山ノ上 山ノ上 山ノ上 成  
 廿九日 山ノ上 山ノ上 山ノ上 成  
 三十日 山ノ上 山ノ上 山ノ上 成



























伊予と方々

一日九月淡川中元遊夜に伊予と方々

吉原同合多一糸お急やう

里見お吉

伊木七千

方々人お吉

伊木七千

伊木一平

伊木七千

八七女七千

伊木七千

伊木七千

正月廿九日

伊木七千

伊木七千

伊木七千

伊木七千

正月廿九日

正月廿九日

伊木七千

伊木七千

伊木七千

伊木七千

伊木七千

伊木七千

伊木七千



一 菱安元年二月廿四日 義山 山城山抄及五十五

一 菱安元年三月十日 上野山九右衛門 山城山抄及五十五

一 菱安元年三月十日 上野山九右衛門 山城山抄及五十五

一 菱安元年三月十日 上野山九右衛門 山城山抄及五十五

一 菱安元年三月十日 上野山九右衛門 山城山抄及五十五

一 菱安元年三月十日 上野山九右衛門 山城山抄及五十五

一 菱安元年三月十日 上野山九右衛門 山城山抄及五十五

一 菱安元年三月十日 上野山九右衛門 山城山抄及五十五

西月廿七日

一 菱安元年三月十日 上野山九右衛門 山城山抄及五十五

一 菱安元年三月十日 上野山九右衛門 山城山抄及五十五

一 菱安元年三月十日 上野山九右衛門 山城山抄及五十五

一 菱安元年三月十日 上野山九右衛門 山城山抄及五十五

一 菱安元年三月十日 上野山九右衛門 山城山抄及五十五

一 菱安元年三月十日 上野山九右衛門 山城山抄及五十五

一 菱安元年三月十日 上野山九右衛門 山城山抄及五十五

一 菱安元年三月十日 上野山九右衛門 山城山抄及五十五

一 菱安元年三月十日 上野山九右衛門 山城山抄及五十五







比外載下知扶老也

芝安之年四月三日

山見下

一 武子名白下二七十分限と志たり以て子之入殺二為め有る

一 武子名白下二七十分限と志たり以て子之入殺二為め有る

一 武子名白下二七十分限と志たり以て子之入殺二為め有る

一 武子名白下二七十分限と志たり以て子之入殺二為め有る

一 武子名白下二七十分限と志たり以て子之入殺二為め有る

一 武子名白下二七十分限と志たり以て子之入殺二為め有る

一 武子名白下二七十分限と志たり以て子之入殺二為め有る

一 武子名白下二七十分限と志たり以て子之入殺二為め有る

一 武子名白下二七十分限と志たり以て子之入殺二為め有る

一 武子名白下二七十分限と志たり以て子之入殺二為め有る

一 武子名白下二七十分限と志たり以て子之入殺二為め有る

一 武子名白下二七十分限と志たり以て子之入殺二為め有る

一 武子名白下二七十分限と志たり以て子之入殺二為め有る

一 武子名白下二七十分限と志たり以て子之入殺二為め有る

一 武子名白下二七十分限と志たり以て子之入殺二為め有る

一 武子名白下二七十分限と志たり以て子之入殺二為め有る







附少者坐刻之竹元多ありて出之  
糸入及ありてありて  
昔之の年四月三日  
外四月十七日 日光 山形藩次方有

一 川島忠孝を連泊する人ありて

川島忠孝の事出

一 川島忠孝の事出ありて  
又忠孝の事出ありて  
忠孝の事出ありて

景宗

川島忠孝の事出

川島忠孝の事出

川島忠孝の事出

一 田島忠孝の事出ありて

田島忠孝の事出

田島忠孝の事出

一 山形藩次方有

十二月十三日

一 昔の通承傳の事出ありて

昔の通承傳の事出ありて

昔の通承傳の事出ありて

昔の通承傳の事出ありて

一 義直の事出ありて

義直の事出ありて

一 新田の事出ありて

新田の事出ありて

一 久松の事出ありて

久松の事出ありて

山形藩次方有

五十六











一 門下を是怪たりと云釈世に於て右語す

一 仙臺城に在りて性日性世に於て年々十を分りて其の  
才教赦免十五十九と云い出せしむるは其の才教に  
て右語す也代に云い出せしむる

一 火を中敷かたぐ十有月心早下世に於て是れ其の才出  
来て所親族中一家一族出合出而老也其の才教は其の  
火の傍りて其の才教に云い出せしむるは其の才教に  
性も其の才教に云い出せしむるは其の才教に

一 火の傍りて其の才教に云い出せしむるは其の才教に  
性も其の才教に云い出せしむるは其の才教に

一 火の傍りて其の才教に云い出せしむるは其の才教に  
性も其の才教に云い出せしむるは其の才教に

一 火の傍りて其の才教に云い出せしむるは其の才教に  
性も其の才教に云い出せしむるは其の才教に

お首をい性すを云う及被さるる

一 お首をい性すを云う及被さるる

一 お首をい性すを云う及被さるる

一 お首をい性すを云う及被さるる

一 お首をい性すを云う及被さるる

一 お首をい性すを云う及被さるる

一 お首をい性すを云う及被さるる

一 お首をい性すを云う及被さるる

一 お首をい性すを云う及被さるる

一 お首をい性すを云う及被さるる

一 お首をい性すを云う及被さるる

其の才教に



四月廿六日

山平判

中意山物皮

茂庭園物皮

津田物皮

夏山物皮

古内物皮

古内物皮

一 版内道皮宗章証生

一 版内道皮の妻阿之年四月廿九日証生山母の家女

印之身皮の日後

音名もあま皮

寛文三年 八日死去十六日

一 把方皮三氏言方版内道宗章と云々を証生

山日後の身皮

古内物皮

一 貞山様十三年忌の所言和尙指書法證和尙言

多の言先証式

一 多の言先証式

多の言先証式

一 多の言先証式

父曰氏伊在の十言本五年伊歳と中言初少言三十二

又言減少三十二又言妻阿之年七月廿日証生

下言不台言知好言三十八言三十二又言

正月廿九日

一 陽言言言和尙陽指新任洞水入院

一 洞水和尙陽言言入院妻阿之戊子七月廿四日

多の言先証式

一 茂庭園物皮

古内物皮

古内物皮



戸田喜吉下旨一葉十葉と書し他世を憂ふも  
上様山掃地を沙雨の傍に之を城破後能事請ふ事と出精  
念を是れ取出さる一葉十葉と書し  
之を大書多しと云はれ侍人等も其の事御座りて其後其の事  
和因因悔ふは是のし様々

仲権 廿二日

後庭園御殿

忠宗 山吉

一 伊豆の薩摩屋皮死去後和皮家記に書さる

伊豆の和皮書出

一 薩摩の安芸の年九月十日二十七日に病死詔成百二  
十又四又別在書有御座りて今も在書五回年と成  
御少と書さる 伊豆丸五回年と成さる百七と書さる  
伊豆丸も書さる

吉山記録 抄載

一 大浪の書切後 伊豆丸

伊豆丸

安芸の年 伊豆丸

一 大浪の書切七月廿日と書物を以て抄取中へ抄取す事  
甚く書切す事と云ふ事をつらく抄取す事 我亦亦下外  
しを治る中身も戸を三押臨らばい手押に押籠  
出さる事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
加いし自我木押こらたすれもふたは下を抄す事  
つきし自我木押こらたすれもふたは下を抄す事  
三書常く抄取す事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
名と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
中二首我亦刀と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
逐し内御多御流うれしと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
亦後出入り書も云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
親交出入り書も云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事



中目見もふはは割七を極しふを志す正保二年十月  
より内と名を置ておぼしめし保元元年条切替可  
中より女房より中目見に成下りおぼしめし保元二年  
四月廿九日下り仰り旨言せられたる中目見に是迄  
係りて通切替り申上

茂原内侍

九月十二日

海田色白

古河地録に據りて

- 一 白石古三浦死去五十年中遺記に據り仰りて
- 一 此年より伊豆大花女夜を言ひて
- 一 中務夜より古三浦死去より
- 一 伊豆大花女夜
- 一 宗務御陽御苗孫石川大和夜令
- 一 白石古三浦宗信

宗務知り言ひ内三言のみ久しき事なり古三浦元年十月  
廿九日死去古三浦宗務御陽御苗孫石川大和夜令

宗信苗孫日人牙

一 白石古三浦御日人牙

一 古三浦御日人牙は古三浦新田言御祖系  
依り知り言ひ新田御祖系は古三浦御祖系に  
久三浦八月廿九日死去より御孫石川大和夜令

古三浦

古三浦古三浦古三浦古三浦古三浦古三浦古三浦古三浦  
古三浦古三浦古三浦古三浦古三浦古三浦古三浦古三浦

一切支丹宗門小松掃アは年々いふ載り  
切支丹より申上

一 上儀より他田古三浦御日人牙と申古三浦御日人牙  
これ御日人牙より古三浦御日人牙より古三浦御日人牙  
御日人牙より古三浦御日人牙より古三浦御日人牙



一 菱安元年十月十日能谷宗安の皇子怪十人上揚原  
白茅下と宗安の自中根を波古波を以 上使原中成  
るに 上宗安の所為世に名を外 上使原中成  
揚原の上

吉田号三傳  
仲并茂三傳

一 油井普如宗安の弟  
仲并普如年上

切世生

一 田子肥前高重死去  
一 菱安元年十二月十三日田子肥前高重死去

三氏高重

田子肥前高重菱安元年十二月十三日二十二日  
死去

吉田記録抄載

一 松島陽徳院の建立被仰せり

陽徳院の建立被仰せり

一 陽徳院の建立被仰せり菱安元年山並請給り  
名高知回二年十月半告り重利尚近位高重  
山祖但 陽徳大姉の御年所少も早も近位  
内高重の御年二月廿五日所告り重利尚近位  
所告り重利尚近位

私菱安三年二月十七日下 陽徳院上棟文  
所告り重利尚近位



忠宗君記録引證記卷六終





Handwritten text in archaic Chinese characters, likely a title or header.

Handwritten text in archaic Chinese characters, possibly a date or location.

1 皇朝通志卷之...

2 皇朝通志卷之...

3 皇朝通志卷之...

4 皇朝通志卷之...

5 皇朝通志卷之...







